

「終わらない夏 2013 VI」

私たちは信じていた
 今日のこの日が来ることを
 私たちは信じていた
 きっと来ると信じていた
 先輩と同じ道を歩いていきたいと
 スタートした私たちであったが
 私たちが歩いてきた道のりは
 すべて苦しかった
 何度涙を流したか
 何度悔しい気持ちになったか
 負けた新人戦決勝フルセット
 犬山駅まで

悔しさを噛みしめて歩いた冬の午後
 自信をもつてのぞんだ春季大会の敗戦
 何一つ先輩のようにはいかなかったが
 すべて叶わなかった私たちが
 なくさなかったものが一つ
 何度負けても
 希望をなくさなかったこと
 何度つまずいても
 お互いに向き合ったこと
 25点目のコールが体育館に響く
 歓声が体育館に響く
 両手のこぶしを思いっきりつきあげた
 満面笑みのハイタッチ
 最後の最後でつかんだ28年目の海部地区優勝

